

しんち



第84号

2015年 6月 日本野鳥の会三重
<http://miebird.org/>

三重県のカワウコロニーと紀伊長島 赤野島カワウ駆除問題

津市 平井正志

カワウ (*Phalacrocorax carbo*) はかつて保護鳥であり、中部地方太平洋岸に局所的に生息していたものが第二次大戦後急激に増加し、分布を広げた。現在では北海道にまで分布している。個体数の増加と共に、漁業における被害の増大も訴えられるようになった。特に内水面漁業、内湾の定置網、養殖魚における被害は著しいと推定される。ただ、どれくらいの被害があるのかは正確な算定ができないのが現状である。三重県でもかなりな個体数が生息しており、漁業被害も報告されている。本稿では紀伊長島 赤野島におけるカワウ駆除の現状と県内のコロニーの現状をまとめた。

紀伊長島 赤野島でのカワウ駆除

北牟婁郡紀北町 紀伊長島の沖合には大島、耳穴島など無人島がいくつかあり、カンムリウミスズメ、カラスバト、オオミズナギドリ、ウチヤマセンニュウなど貴重な鳥類の生息地として知られ、国設鳥獣保護区として保護されている。鳥類の生息状況はしろちどり 79号 80号に詳しい。その無人島の一つ赤野島はいくつかの小島からなっており、現在カワウが棲みついて、コロニーを形成している。赤野島は断崖絶壁に囲まれた島で、頂上付近にスダジにヤマモモ、タブノキ、ウバメガシやモチノキが混じる原生林がある。カワウ営巣の影響で、島内のいくつかの部分でこれらの樹木のかなりが損傷を受け、枯れかかっている、深刻な状況である。また、周辺の海面では養殖漁業や定置網漁業が盛んであるが、カワウが“いけす”や定置網の魚を食べる被害が報告されている。

2010年度から環境省は株式会社野生動物保護管理事務所（町田市）（名前が紛らわしいが民間企業であり、公官庁の事務所ではない）に委託して赤野島のカワウの調査・捕殺を行っている。三重県の調査（野鳥の会が委託され、2009年まで調査した）によると2008年までは最大でも1000羽以下であった（表1）。その後の上記の株式会社のねぐら入り調査によると以降徐々に個体数が増加し、2010年には1250羽、2011年には1697羽、2012年には2201羽（いずれもカウントした最大数）となった。

2012年からは同社が環境省の委託を受け、営巣地への営巣妨害を目的としたプラスチックテープ張りや空気銃による捕殺を開始した。2012

年には赤野島で124羽を捕殺した。しかし赤野島は岩礁が多く船で近づくのが容易ではなく、捕殺の効率を上げることは難しい。カワウは赤野島対岸の諏訪池（海跡湖）でも休息しており2013年には諏訪池で58羽を捕殺した。なお、2013年の調査では最大ねぐら入り数は1693羽、2014年のそれは1704羽となっている。これまでの最大である2012年の2201羽よりは少ないが、依然として多数のカワウが赤野島で営巣している。

=====
目次=====
三重県のカワウコロニーと紀伊長島 赤野島カワウ駆除問題-----1
表紙の言葉-----1
2014/2015 ミヤコドリカウント-----4
三重県北部のアカウミガメの産卵、ウミガメ類およびスナメリのストランディング調査の紹介-----6
日本野鳥の会三重 2015 年度総会-----8
日本野鳥の会三重 2015 年度予算書-----11
事務局だより-----10
今後の探鳥会予定-----12
野鳥記録-----13
探鳥会報告-----16
編集後記-----19
=====

表紙の言葉

松阪市 小野 新子

手入れが行き届かない我が家の庭は、小鳥たちにとっては格好の“お食事処”となっている。

春と秋の渡りの頃には、今までに キビタキやセンダイムシクイ、ノゴマ、アリスイ、コサメビタキ等が立ち寄って行った。在住のスズメやヒヨドリと違う気配を感じたら、大急ぎで双眼鏡を手に辺りを探さなければ・・・彼らと遭遇できるのは、せいぜい半日から一日の束の間だから・・・

そしてエゴノキにキビタキでも止まっていようものなら、荒れ庭も一気にグレードアップだ。

渡りの途中の珍客たちは、案外身近で一休みしていて、我々はそれに気づかないだけかも知れない。

また、諏訪池での捕殺は池で休息するカモ類を追い払うことになり、問題になり、対策が検討されている。

琵琶湖でのカワウ駆除と個体数減少

カワウ捕殺駆除の効率を上げることは難しく、コロニーが他へ分散することも問題であり、対策が難しい現状である。

琵琶湖で竹生島に巨大なコロニーがあり、琵琶湖に生息する淡水魚に大きな影響がでている。その数は1994年には5,000羽程度であったものが徐々に増え2003年には10,000羽を超えた。ところが2004年からの琵琶湖北部の竹生島と伊崎半島のコロニーの調査では40,000羽をカウントしている（いずれも5月の生息数調査値）。カウントの手法が違うため、増加しているのか否かはわからない。しかし2004年から2008年までは約40,000羽で推移している。2009年より、専門の射手による空気銃を使った大規模な捕殺が始まり、2009年から2012年までに38,460羽を捕殺した。この結果、カワウの個体数は徐々に減少し、

2012年には約10,000羽にまで減少している。特に竹生島では2008年の約30,000羽から2012年には約2,000羽と顕著に減少した。

三重県のカワウ個体数変化

野鳥の会による調査

三重県は野鳥の会三重に委託して、2006年から県内各地のコロニーでの生息数を調査している。調査地域は表1に記載した。調査は年3回、3月、7月、12月に行った。

2013年度までの結果を図1に示す。この図では伊勢湾に面した北中部（松阪市・伊賀市以北）、南部（伊勢・鳥羽および太平洋に面した志摩・南伊勢・紀北・尾鷲）に分けて合計を表した。なお、赤野島と諏訪池の調査は2014年以降調査がされておらず、また記録個体数も株式会社野生動物保護管理事務所のそれと大きく違うため、合計から除外した。その他のコロニーで近年調査が行われていないコロニーもあるが、集計に加えた。

表：三重県内のカワウコロニー調査地

調査地	所在地	環境	海からの距離(km)	観察最大個体数	備考
三重県北中部					
石垣池	鈴鹿市	池	4	2765	樹木伐採し、コロニー消滅
四日市市吉崎	四日市	河口、池	0	381	
浄土池	鈴鹿市	池	4	2233	
伊坂ダム	四日市市	ダム	6	1028	
山上池	鈴鹿市	池	3	450	
中の川河口	津市	河口、池	0	696	池を埋め立て、コロニーほぼ消滅
田中川河口	津市	河口、池	0	286	
栗真町屋町	津市	池	2	201	太陽光発電のため、コロニー消滅
二重池	津市	池	3	1101	
高砂養魚場	津市	河川下流、池	0	744	
雲出大橋下流堰	津市	河川下流	2	157	コロニー消滅
雲出川古川左岸堤防	津市	河川下流	2	1101	
櫛田川	松阪市	河川中流	5	1003	
伊賀市上神戸	伊賀市	河川中流	34	37	2014年以降調査なし
三重県南部					
外城田川	伊勢市	河口	0	1183	
二つ池	伊勢市	池	4	2292	倉田山公園内
弁天島	鳥羽市	海	0	492	
三ツ島	鳥羽市	海	0	1292	
浜島港	志摩市	内湾	0	1543	
大瀬	南伊勢町	内湾	0	317	2013年以降調査なし
諏訪池	紀北町	池	0	470	2013年7月以降調査なし(集計に含めず)
赤野島	紀北町	海	0	889	2013年7月以降調査なし(集計に含めず)
江ノ浦	紀北町	内湾	0	55	2013年以降調査なし
須賀利大池	尾鷲市	池	0	350	2013年以降調査なし
尾鷲港弁財島	尾鷲市	内湾	0	458	
少数点以下は四捨五入し、かつ海からの距離が1km以内のものは0 kmと表記した。					

コロニーの分布

三重県内のカワウコロニーは表1に示した通りである。これ以外にも少なくとも数か所はコロニーがあるが、コロニーを形成する個体群のほぼ全体を把握していると考えられる。コロニーは海に面した場所に形成される場合がほとんどである。伊坂ダム、浄土池、榑田川中流、二つ池のコロニーは海からの直線距離で5 km前後離れているが、これ以上離れた場所のコロニーは、海岸から30 km以上離れた伊賀神戸の小規模なコロニーがあるだけである(表1)。これは三重県では湖水や大河など淡水魚を豊富に産する条件がなく、カワウは餌の大半を海産魚に頼っているからであろう。海岸に近く、かつ養魚池や河口など、汽水あるいは淡水面があり、羽根や体の塩分を落とせる場所のあるところが特に好まれるようである。

季節変動

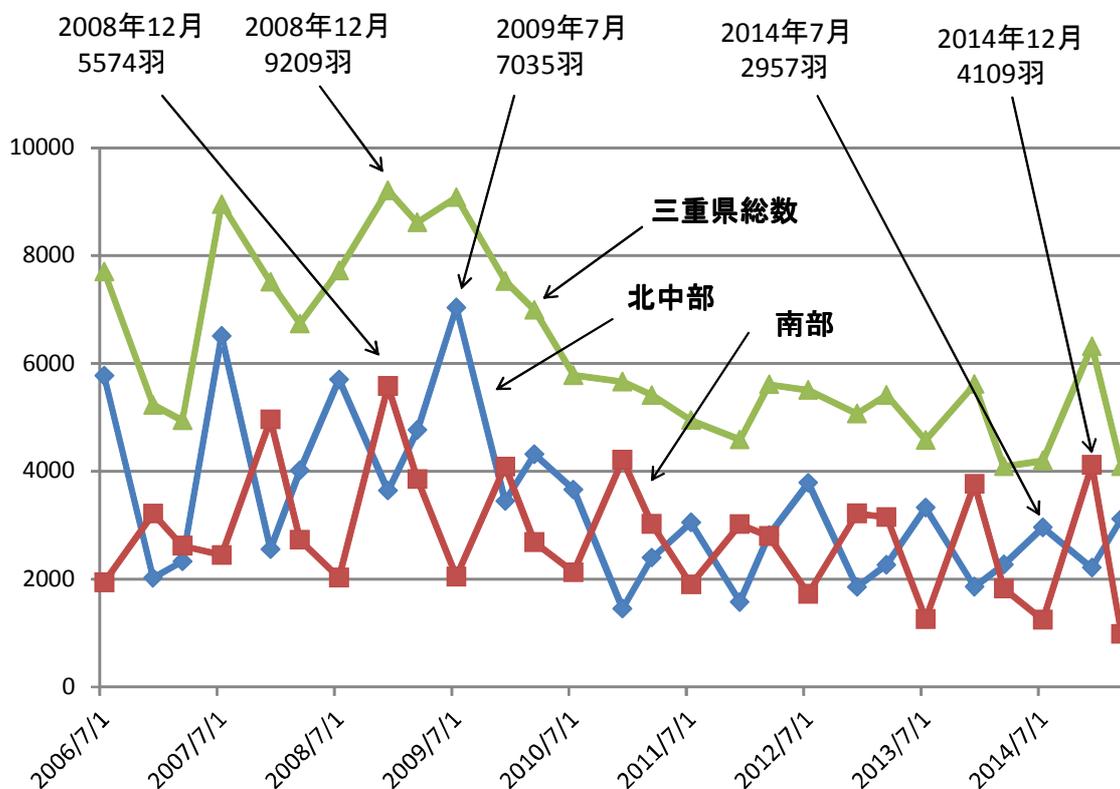
地区合計のグラフを見ると北中部コロニーの個体数は7月に最大値を示す傾向が強いが、南勢・志摩以南・東紀州のコロニーの最大値は12月にある。他県のコロニーとの出入りもあるだろうが、カワウの一部は季節によりコロニー間を移動すると思われる。この移動が単に温暖な地方への移動なのか、それとも餌となる魚類の回遊、季節変動などによるものかは不明である。他府県での調査でも同様な傾向があるのか詳細を待ちたい。

節変動などによるものかは不明である。他府県での調査でも同様な傾向があるのか詳細を待ちたい。

個体数の減少傾向

北勢では石垣池が改修され、コロニーがほぼ消滅し、また磯津漁港周辺の養魚池跡のコロニーも縮小した。変わって、浄土池にコロニーの個体数が増加したが、中勢地方でも中の川河口の養魚池跡の大規模なコロニーが池の埋め立てによりほぼ消滅し、また、雲出古川河口付近のコロニーも縮小し、さらに津市二重池および榑田川中流の河畔林のコロニーも縮小した。また、津市栗真町屋町のコロニーも太陽光発電設置で消滅した。石垣池や中の川河口のコロニーはコロニーのある林の伐採による直接的な影響であるが、環境の変化のない、コロニーでも減少している。三重県北中部全体での個体数は2007年から2009年の2,000羽から3,000羽程度から減り、現在では1,300から1,000羽程度になっている。このように三重県北中部では個体数の減少傾向があきらかである。

この北勢中勢地方の個体数の減少は琵琶湖で専門射手による大規模な駆除が始まった2009年以降に顕著であり、琵琶湖における個体数減少の影響を受けている可能性もある。



図：三重県におけるカワウコロニーの調査結果 縦軸は個体数

一方、南勢地域では伊勢倉田山公園二つ池に大きなコロニーが維持されており、鳥羽弁天島のコロニーは縮小したが、鳥羽三つ島のコロニーは維持されている。全体として顕著な減少傾向はみられない。熊野灘に面した地域、志摩、南伊勢、紀北町の全体でも減少傾向はみられていない。個別にみると、南伊勢町大瀬、尾鷲弁天島のコロニーは減少が明らかである。しかし、赤野島でのコロニーの状況は前述の環境省委託の調査と大きく食い違っており、野鳥の会の調査よりもかなり多い個体がカウントされている。当会では 2014 年以降調査を中断している。三重県南部のカワウ個体数については今後も環境省の調査結果を考慮に入れて、推移傾向を検討すべきであろう。

前述のように、赤野島でのカワウ駆除は今後も継続されるであろう。その場合、カワウが他のコロニーに移動したり、周辺に新しいコロニーを形成することも考えられる。上記のように、季節により、個体が移動することを考慮するならば、南勢あるいは熊野灘に面した地域に移動することが考えられ、その方面での調査、新しいコロニーの検索が欠かせないであろう。

また、伊勢湾岸、四日市周辺、津周辺の海域では巨大なカワウ集団による採餌が観察される時がある。これらの個体は、三重県内のコロニーからばかりでなく、愛知県方面からのカワウも参加していると推定される。愛知県では弥富野鳥園に巨大なコロニー（2012 年 12 月:15,600 羽、2013 年 12 月: 9,300 羽）があり、さらに知多半島鵜の山（2012 年 12 月: 5,200 羽、2013 年 12 月: 3,700

羽）にも大きなコロニーがある。伊勢湾および志摩半島以南の三重県沿岸における漁業被害の対策とカワウ個体数管理にはこれらのコロニーの個体も念頭に置く必要がある。

謝辞

赤野島での調査駆除についての情報は株式会社野生動物保護管理事務所関西分室の加藤洋氏から得た。また愛知県のカワウコロニーに関するデータは愛知県環境部自然環境課岩田峻平氏の協力により、また、県内および近県での調査結果については三重県農林水産部獣害対策課山口利昭氏の協力により、入手した。これらに方々に謝意を表す。

参考文献

著者不明（2011）「平成 22 年度紀伊長島鳥獣保護区カワウ生息状況等調査業務報告書」株式会社野生動物保護管理事務所、町田（この報告は年度ごとに 2014 年まで合計 4 冊発行されていてそれらを参考とした）

堀内 弘（2014）堀内弘大いに語る紀伊長島の海と鳥（その 1）. しろちどり(79): 1-5.

堀内 弘（2014）堀内弘大いに語る紀伊長島の海と鳥（その 2）. しろちどり(80): 1-3.

平井正志（2014）倉田篤の残した記録. しろちどり(80): 4-5.

著者不詳（2013）カワウの保護管理に関するレポート（平成 24 年度版）環境省自然環境局野生生物課鳥獣保護業務室、東京（環境省ホームページより閲覧可能）

2014/2015 ミヤコドリカウント

シギ・チドリ類の生息数については環境省が主催し、バードリサーチが委託を受けて全国で行われているシギ・チドリカウントで調査され、発表されている。しかしこの調査は厳密な同時刻調査ではないため、正確な個体数を把握できない。そこで、日本野鳥の会三重では県下で越冬するミヤコドリの総個体数を把握するため、伊勢湾西岸全域でミヤコドリ個体数を調査した。

調査方法

調査地域は表 1 に示す。2014/2015 の冬期の生息数調査は 3 回行われた。そのうち 1 回はミヤコドリカウント探鳥会として行われた。調査日時は以下の通りで、小潮あるいは中潮で、ミヤコドリが海岸近くに集まる満潮近くの時間に調査した。

2014 年 12 月 15 日 10:00-11:00 （小潮 満潮 12:00 頃＝松阪港、海上保安庁 海洋情報部のホームページによる）

2015 年 1 月 18 日 14:00-15:00 （中潮 満潮 16:00 頃＝同上）

2015 年 2 月 26 日 9:00-10:00 （小潮 満潮 10:30 頃＝同上）

結果

結果を表 1 に示す。伊勢湾西岸全域で 62 羽から 65 羽のミヤコドリが 12 月中旬から 2 月下旬まで越冬していることが確認された。個体数はこの期間ほぼ一定であり、他の地域との移動はほとんどないと思われた。越冬場所は昨年までとやや異なり、北部の高松海岸で多数個体が定着していた。一方昨冬まで、少数羽が観察されていた。北部の鈴鹿川河口、派川河口では今回 1 羽も観察されなかった。安濃川河口ではこれまでと同様多

数が観察された。香良洲海岸・五主海岸では昨季と同様にミヤコドリが観察され、安濃川河口との間で移動があることを示唆している。金剛川以西では昨季と同様にミヤコドリは観察されなかった。しかし、2015年4月20日には榊田川河口で30羽の群が観察されている(中村洋子：調査)ので、今後榊田川以西へも飛来する可能性があり、継続した調査が必要である。

これまでの調査でミヤコドリは安濃川から雲出川の河口にかけての海岸、主に河口付近で観察されている。また、県北部の鈴鹿川、鈴鹿川派川、朝明川河口(高松海岸)でも観察されるがその他の海岸、特に榊田川、金剛川河口、宮川河口には飛来しないか、飛来してもごく稀であることが明らかになった。ミヤコドリの生息を保護する上で重要な知見であろう。また、昨冬にミヤコドリが多数越冬した愛知県矢作古川河口においても2014/2015の冬期にはミヤコドリが観察されなかった。

この調査では絶滅を危惧されているコクガンとズグロカモメの調査も同時に行った。

コクガンは5羽から7羽が越冬したが、これまでよく観察されていた安濃川河口では観察されず、香良洲海岸以南、金剛川河口までの海岸で観察された。コクガンの越冬地は津・松阪の海岸にほぼ限定されていると思われる。また、ズグロカモメは主として金剛川河口で観察され3回のカウントでの最高数は14羽であった。なお、調査ではツクシガモがいくつかの調査地点で観察された。

なお調査に参加した会員は以下の通りです。

安藤宣朗、石原宏、今井鈴子、今井光昌、岡八智子、奥山正次、落合修、久住勝司、近藤義孝、斎藤加代子、世古口有司、田中洋子、中村悦子、中村洋子、西村泉、平井正志、前坂和子、前田聡、宮本英子 (五十音順)、

なお、愛知県矢作古川河口については昨年ミヤコドリが滞在した実績があるため、西三河野鳥の会下村孝嘉氏にカウントしていただきましたが、この冬期ミヤコドリは飛来しませんでした。

(まとめ 平井正志)



コシダ

表: 調査結果	2014/12/15		2015/1/18				2015/2/26					
	ミヤコドリ	コクガン	ズグロカモメ	ツクシガモ	ミヤコドリ	コクガン	ズグロカモメ	ツクシガモ	ミヤコドリ	コクガン	ズグロカモメ	ツクシガモ
高松海岸	14	0	0		41	0	0		37	0	0	
鈴鹿川河口	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
鈴鹿川派川河口	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
楠海岸	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
豊津浦・町屋浦	-	-	-		0	0	0		0	0	0	
志登茂川河口	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
安濃川河口・中河原海岸	29	0	0		19	0	0		25	0	0	
阿漕浦・御殿場海岸	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
香良洲海岸	19	0	0		5	7	0	3	0	5	1	1
雲出川河口・五主海岸	0	3	0		0	0	0		0	0	0	
阪内川河口	0	3	1		0	0	0		0	0	0	
金剛川河口	0	0	13		0	0	7		0	0	10	
榊田川河口・松名瀬海岸	0	0	0		0	0	0		0	0	0	
外城田川河口/宮川左岸	0	0	0	1	0	0	0		0	0	0	
宮川河口・大湊海岸	0	0	0	0	0	0	0	13	0	0	0	10
五十鈴川河口～二見池の浦海岸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	62	6	14	1	65	7	7	16	62	5	11	11
愛知県矢作古川	0				0				0			

一: 調査されなかった。
ツクシガモはすべての調査地で調査されたわけではない。報告のあった調査地のみ記載した。

三重県北部のアカウミガメの産卵、ウミガメ類およびスナメリのストラランディング調査の紹介



三重大学 ウミガメ・スナメリ調査・保全サークル
「かめっぷり」所属3年
矢田 百絵

皆さんは三重県の海岸にもウミガメが産卵のために上陸することをご存知でしょうか？
私たち「かめっぷり」は三重県にやってくるウミガメ類およびスナメリを調査しています。

●かめっぷりとは？

私たち三重大学ウミガメ・スナメリ調査・保全サークル「かめっぷり」は2000年に設立・活動開始をした学生サークルです。三重県北中部に位置する鈴鹿市鼓ヶ浦海岸から津市御殿場海岸のアカウミガメの上陸・産卵およびウミガメ類のストラランディング調査、鯨類の一種であるスナメリのストラランディング調査を行っております。(ストラランディングとは、海洋生物が生死を問わず迷入または浜へ座礁・漂着すること)



図1 調査範囲(黄色字)

● 調査対象種

①アカウミガメについて

カメはおよそ700種いますが、現存しているウミガメは2科7種です。ここ三重県の砂浜に上陸・産卵するアカウミガメは頭が大きく赤褐色のウミガメです。

②スナメリについて

スナメリは海岸近くの浅い海域に生息する小型の鯨類で、伊勢湾にも生息しています。全身が薄い灰色をしていて、イルカのようになくちばしや背びれはなく、丸い頭をしているのが特徴です。



図2 アカウミガメ



図3 スナメリ

●調査方法について

①浜歩き

浜歩きは海岸を歩いてウミガメやスナメリがストラランディングしていないか、アカウミガメが上陸・産卵していないか調査します。ウミガメが浜を歩くと図4のようにキャタピラーが通ったような上陸跡見られ、産卵した場所にはボディピットという大きなくぼみが見られます。

②産卵調査

産卵調査ではアカウミガメの産卵について調査します上陸しても産卵せず海へ帰ってしまうこともあるので産卵の有無を確かめるために穴を掘ります。卵が見つかれば砂をかけて元に戻し獣害などを防ぐために保護柵を設置します。昼間の高温が卵に影響を与えないように基本的に夕方頃に調査を行います。

③孵化率調査

産卵から約2か月後に仔ガメが孵化します。孵化率調査では産卵巣からの仔ガメの脱出数の確認、卵の割れている数などで何匹が孵化・脱出し

たかを調査します。まれに、脱出できていない生きた仔ガメが巣に残っていることがあり、「かめっぷり」が海の方へ誘導することがあります。



図4 町屋海岸上陸跡 2014/6/2

● 2014年度の調査結果

2014年度の調査(2014年4月～10月)では、ウミガメの上陸は21回、その中で産卵は11回確認されました。産卵11回のうち台風の影響により、産卵巣2つが流出し、1つが上陸調査にて産卵巣を発見できず保護柵を設置できなかったため、獣による食害を受けました。平均孵化率は64.4%でした。

またストランディング調査ではアカウミガメ8個体、アオウミガメ1個体、種不明2個体。調査が間に合わず流出した個体が5個体の合計16個体。スナメリは31個体が確認されました。(うち4個体が調査範囲外)

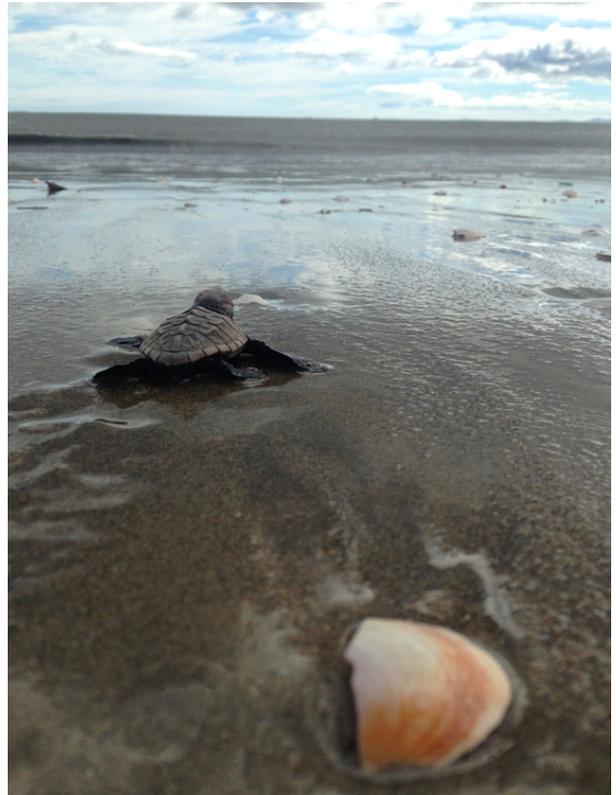


図6 町屋海岸孵化率調査 2014/10/6



図5 産卵調査 2014/7/22

④ スTRANディング調査

STRANDING調査では、海岸に漂着したウミガメ・スナメリを調査します。調査では体長の測定や性別の判断およびサンプルの採取を行います。サンプルは年齢査定やDNA分析に使われます



図7 御殿場海岸 2014/6/3

した。このために印刷会社を変更した。これに伴いページ数を4の倍数としなければならず、ページ数の調整等、編集作業にこれまでより労力が必要となった。

2) ホームページ改変のリニューアル：当会のホームページは担当者多忙のため、近年は十分な改訂更新作業がされずにいた。

今回新規の担当者が得られ、ドメイン「miebird.org」を新たに取得し、全面的な改変に着手し、すでに一部を公開した。

事務局

1. 総会 2014年5月18日(日) 三重県総合文化センター
2. 理事会 第1回 2014年 5月18日(日) 三重県総合文化センター
第2回 11月 8日(日) サンワーク津
第3回 2015年 3月 1日(日) アスト津みえ県民交流センター
3. 日本野鳥の会 第22回中部ブロック会議
2014年6月7日(土)～8日(日) 静岡県駿東郡小山町
4. 平成26年度日本野鳥の会連携団体全国集会
2014年11月8日(土)～9日(日) 東京都内

2015～2016年度役員(2年任期)

総会で以下の方々が役員に指名されました。

理事・監事

- | | | | |
|---------|---------------------|----------------|------|
| <北勢地区> | 近藤義孝、安藤宣朗、川瀬裕之、三曾田明 | <伊賀地区> | 前澤昭彦 |
| <中勢地区> | 平井正志、石原 宏、岡八智子、服部公子 | <松阪地区> | 西村四郎 |
| <東紀州地区> | 中井節二、<南勢地区> | 中西 章、小坂里香、西村 泉 | |

なお、総会中断中に行われた理事会で役割分担は以下のように決定しました。

- | | | |
|-----------|-----------|---------------|
| 代表 平井正志 | 会計担当 中西 章 | 企画部長 西村四郎 |
| 副代表 近藤義孝 | 保護部長 近藤義孝 | 編集部長 平井正志 |
| 事務局長 西村 泉 | 研究部長 前澤昭彦 | 監事 石原 宏・岡 八智子 |

2015年度 活動計画

保護部

1. 木曾岬干拓地はチュウヒ調査を継続する。
2. ミヤコドリについては越冬個体数を3回程度調査する。さらに越夏個体数、等も含めて調査する。これらの調査にはなるべく多くの会員の参加を期待する。
3. 里山、山岳地帯の鳥の調査を計画する。
4. 鈴鹿山脈北部におけるイヌワシの調査について検討する。
5. 種々の工事や開発による鳥類生息環境の悪化については個別に対応する。

研究部

2014年度同様にガン・カモ・ハクチョウ類調査とシギ・チドリ類モニタリング調査、カワウねぐらコロニー調査を計画。

編集部

- 1) 会報は1年4回、全頁カラー、16ページから20ページを持続する。写真、記事の投稿を歓迎する。
- 2) ホームページは今後、会員専用のページを作る、フィールドガイドを全面更新する、など、さらに

充実させる。野鳥写真などの投稿を歓迎する。

ホームページは広く一般への広報を行うとともに、特に若い世代の会員増加を図る手段として活用し、既存会員へのサービス提供も充実を図る。そのために以下のようなコンテンツを充実させていく。

- ・フィールドガイドを全面更新
- ・フォーラム(掲示板)の設置
- ・野鳥写真の投稿を促し、ギャラリーを充実させる
- ・SNS (Facebook、Twitter) との連携(※システムの研究、および運用について検討を行う)

事務局

- | | | |
|--------|--------------------|--------------|
| 1. 総会 | 2015年5月31日(日) | (財)三重県教育文化会館 |
| 2. 理事会 | 第1回 2015年 5月31日(日) | (財)三重県教育文化会館 |
| | 第2回 | 8月30日(日) 未定 |
| | 第3回 | 11月29日(日) 未定 |
| | 第4回 2016年 3月 6日(日) | 未定 |

=====

事務局だより

活動の記録(2015年3月～5月)

- 3/1 第3回理事会
- 3 会報「しろちどり第83号」発行・発送作業
- 3/14～15 「三重しぜん文化祭 in みえむ」に出展参加
- 3/14 ホームページ改変についての話し合い
- 3 委託調査まとめ作業
- 4/1 決算作業
- 5/6 会計監査
- 5 総会準備

お知らせ!

ホームページのリニューアルし、アドレスが変わりました。
新しいアドレスは <http://miebird.org> です。

お願い

野鳥は許可なく捕獲や飼養ができません。もし密猟現場に出会ったら、密猟者に声をかけないで早くその場を離れ、警察(110番か、最寄りの警察生活安全課)へ通報してください。また民家から野鳥の声が聞こえたら、詳しい情報を事務局(090-1566-6010)へ連絡してください。

新任理事の紹介

今回新たに理事に就任された三曾田明さんの自己紹介です。

はじめまして、「日本野鳥の会三重」の新しいホームページを担当している三曾田(みそだ)と申します。そして、その関係で今年度から理事という役割をいただきました。

野鳥の撮影と観察は2010年に始めました。まだまだ知識や経験が不足していると自覚している若輩者ですがどうぞよろしくお願いいたします。

普段はシステムエンジニアという仕事をしています。ホームページ作成は素人ですが、その知識を活かして野鳥好きな人がたくさん集まるようなホームページにしていきたいと思っています。みなさんも、ぜひ活用してください。

それから、私は個人的に、「日本の野鳥識別図鑑」<http://zukan.com/jbirds/> というホームページも運営しています。こんなことをやっている人間だということを知っていただくとともに、こちらも活用していただけると幸いです。

三曾田明

日本野鳥の会 三重 27年度(2015年度)予算書

27年度 自2015年4月1日 至2016年3月31日

単位:円

科 目	27年度予算	備 考	27年度予算会計区分	
	一般・特別合算		一般会計	特別会計
<事業高>				
支部会費	600,000	2000円×300人	600,000	0
受託収入	1,426,000	ガンカモ・カワウ調査	0	1,426,000
受取補助金	0		0	0
受取寄付金	10,000		10,000	0
事業高合計	2,036,000		610,000	1,426,000
事業利益	2,036,000		610,000	1,426,000
<事業管理費>				
支払調査費	820,000	ガンカモ・カワウ調査	0	820,000
雑損費	186,000	ガンカモ調査	0	186,000
通信費	249,000		162,095	86,905
印刷費	278,000	会報カラー化	274,500	3,500
消耗品費	114,000		83,999	30,001
会場費	12,000		3,599	8,401
会議費	45,000	地区会活性化増	41,500	3,500
旅費交通費	226,000	中部ブロック会議・本部会議他	161,297	64,703
支払手数料	54,000		16,197	37,803
講師謝礼金	30,000	野鳥講座開催	30,000	0
図書費	10,000		3,000	7,000
諸会費	5,000		5,000	0
雑費	28,500		16,700	11,800
事務費	55,000		0	55,000
保険費	34,000		0	34,000
一般管理費合計	2,146,500		797,887	1,348,613
事業総利益	-110,500		-187,887	77,387
<事業外収益>				
受取利息	1,000		1,000	0
雑収入	0		0	0
事業外収益合計	1,000		1,000	0
当期純利益	-109,500		-186,887	77,387
<税金等>				
法人税等	90,500		0	90,500
税引後利益	-200,000		-186,887	-13,113

* 一般会計で186,887円の赤字、特別会計で13,113円の赤字、差引税引後利益は△200,000円となる。

今後の探鳥会予定 (2015年6月から10月分)

詳細は行事案内あるいは当会ホームページをご覧ください

● 6月28日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

集合/9:00 愛知県弥富野鳥園

問い合わせ/近藤義孝 090-7431-0563 米倉 静 090-7036-5548

● 7月26日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

内容は、6月28日と同じです。

● 8月8日(土) ねぐら入り探鳥会

集合/17:00 西豊浜町野依(のより)の農協駐車場

問い合わせ/西村 泉 090-1566-6010

● 8月23日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

内容は、6月28日と同じです。

● 9月8日(火) 海蔵川探鳥会 小雨決行!

集合/9:40 海蔵川代官橋北詰

問い合わせ/川瀬裕之 090-1830-4035

● 9月27日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

内容は、6月28日と同じです。

● 9月27日(日) 伊勢タカ渡り探鳥会

開催地/伊勢市 伊勢やすらぎ公園 集合/7:00 やすらぎ公園納骨堂前

問い合わせ/高木正文 0596-24-7283 中西 章 0596-23-4303

● 10月3日(土) 相津岬タカ渡り探鳥会

開催地/松阪市飯南町 相津岬 集合/8:30 道の駅「茶倉」駐車場

問い合わせ/西村四郎 090-2682-5338 中村洋子 0598-21-6033

● 10月3日(土) 御杖高原牧場タカ渡り探鳥会

開催地/奈良県御杖村 御杖高原牧場 集合/8:00 近鉄名張駅東口(現地まで自家用車乗り合わせ) 備考/参加予約必要 田中豊成(090-4088-3164)

● 10月4日(日) 鳥羽タカ渡り探鳥会

開催地/鳥羽市船津町 鳥羽市消防本部横空き地 集合/8:00 鳥羽市消防本部横空き地

問い合わせ/川村晴彦 0599-25-2945 又は 090-3156-7058 中井徳次郎 0599-25-4365 又は 090-4868-9320

● 10月4日(日) 市木川及び水田探鳥会

集合/9:00 道の駅「パーク七里御浜」問い合わせ/中井 節二 090-7028-4978

● 10月25日(日) 木曾岬干拓地探鳥会 雨天決行!

内容は、6月28日と同じです。

野鳥記録 (2015年02月17日から2015年05月12日までに報告があったもの)

野鳥の種類名	個体数	観察年月日	観察場所 (三重県)	雄/雌/などの区別	記録報告者名	脚注
ケリ	5	2015年2月16日	四日市市川島町	1羽は若鳥	矢田 栄史	1
オオジュリン	5	2015年2月17日	三重郡菰野町菰野 三滝川		矢田 栄史	2
ヤマシギ	1	2015年3月28日	松阪市飯南町		西村 四郎	3
ツバメ	1	2015年3月1日	紀宝町井田上野	不明	清水 勝海	4
コウノトリ	1	2015年4月15日	紀宝町神内 水田		清水 勝海	5
アマツバメ	10	2015年4月10日	桑名市員弁川		山神 勝治	6
アカハラ	1	2015年4月20日	四日市市山村ダム		山神 勝治	7
クロツラヘラサギ	1	2015年4月11日	金剛川河口		西村 四郎	8
ミヤコドリ	7	2015年4月16日	三重県桑名市城南干潟		安藤 宣朗	9
ツバメ	5+	2015年3月10日	四日市市西坂部		安藤 宣朗	10
セグロセキレイ	4	2015年5月1日	三重郡菰野町菰野 三滝川	成鳥1 幼鳥	矢田 栄史	11
オオルリ	4	2015年4月21日	三重郡菰野町 三重県民の森	雄3雌1	安藤 宣朗	12
キビタキ	3	2015年5月5日	三重郡菰野町 三重県民の森	成鳥 雄	安藤 宣朗	13

注

- 1) 田んぼに5羽いた、1羽は若いもよう (写真あり)
- 2) 昨年にもこの頃に目撃している、そばにはベニマシコ3羽、ウグイス1羽も観察できた (写真あり)
- 3) 杉林から出てきて、道路を横切って、雑木林に入っていました。けっこう動きは速いです
- 4) 今年初認
- 5) コウノトリの郷公園に問い合わせた結果 この個体は2011年5月に豊岡市祥雲寺地区の人工巣塔で生まれた雌とわかりました
- 6) 3日間とも朝の8時半ごろに飛来し、30分ほど川の上空を飛んでいた
- 7) 毎年やってきて10日程滞在する
- 8) 毎年来ますが、今年は少し遅い (例年だともう1週間早い) 目の先に黄斑があって、毎年同じ個体かもしれません、普通は1日で抜けますが、今年は4日滞在した模様です
- 9) この干潟で観察したのは、初めて
- 10) 今年初認
- 11) いつもの観察コース、川原からジジ、ジジと聞きなれない声 見るとセグロセキレイの幼鳥がいた (写真あり)
- 12) 渡りの初期で葉につく虫を夢中に食べていた、見たのは4羽だが鳴声から森の中に10羽以上はいたと思われる (写真あり)
- 13) 例年この時期には、沢山見られる



ヤマシギ (西村四郎：撮影)

コウノトリ
(清水勝海：撮影)



アマツバメ (山神勝治：撮影)



アカハラ (山神勝治：撮影)

クロツラヘラサギ
(西村四郎：撮影)



キビタキ (安藤宣朗：撮影)

探鳥会報告 (2015年2月～4月)

● 木曾三川探鳥会

2015年2月8日(日)開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

● 安濃川河口探鳥会

2015年2月8日(日)開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2015年2月22日(日)9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者15名(会員8名)

ツクシガモ(11)、オカヨシガモ(10)、マガモ(25)、カルガモ(15)、ハシビロガモ(10)、コガモ(100)、ホシハジロ(40)、キンクロハジロ(13)、カイツブリ(2)、キジバト(10)、カワウ(70)、アオサギ(6)、ダイサギ(1)、オオバン(10)、タゲリ(20)、ケリ(15)、クサシギ(1)、イソシギ(3)、セグロカモメ(2)、ミサゴ(6)、トビ(2)、チュウヒ(1)、ハイイロチュウヒ(2)、オオタカ(1)、ノスリ(2)、カワセミ(3)、コチョウゲンボウ(1)、モズ(4)、ハシボソガラス(70)、ハシブトガラス(50)、ヒバリ(30)、ヒヨドリ(16)、ウグイス(3)、ムクドリ(37)、シロハラ(2)、ツグミ(25)、ジョウビタキ(3)、イソヒヨドリ(1)、スズメ(300)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(4)、タヒバリ(1)、カワラヒワ(20)、ホオジロ(15)、アオジ(3)、オオジュリン(5)、ドバト(20)

計47種



ササユリ

開始直前まで雨が降っていたのに、15名の参加者がありました。

観察できた種類も47種と多かったです。終了前に水田の中でコチョウゲンボウが観察できました。

● 五十鈴公園探鳥会

2015年2月22日(日)10:10～12:00

伊勢市 五十鈴公園

高木正文 参加者8名(会員8名)

カイツブリ、カワウ、コサギ、アオサギ、カルガモ、トビ、ノスリ、オオバン、イカルチドリ、イソシギ、キジバト、カワセミ、コゲラ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、ヒヨドリ、モズ、イソヒヨドリ、シロハラ、ツグミ、ウグイス、エナガ、ヤマガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ドバト 計36種

朝方まで雨降り、天気予報も雨のため、参加者が少なかった。

「カワセミ」他、多数の種類が間近で観察できた。又、雨も降らず終わることができた。

● 石垣池探鳥会

2015年3月1日(日)開催予定でしたが、雨天のため中止しました。

● 安濃中央総合公園探鳥会

2015年3月8日(日)9:30～11:30

津市安濃町 安濃中央総合公園

石原 宏 平井正志 参加者13名(会員13名)
マガモ、ホシハジロ、トビ、ノスリ、キジ、キジバト、ヒヨドリ、モズ、シロハラ、ツグミ、ヤマガラ、メジロ、カシラダカ、アオジ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラス 計18種

安濃中央公園では大きなイベントがあり、公園内での開催は無理となり、周辺の林とか畑地(荒地)での開催となったが、ノスリの出現などで盛り上がった。

● 海蔵川探鳥会

2015年3月10日(火)9:45～11:40

四日市市西坂部町 海蔵川沿い

川瀬裕之 参加者7名(会員6名)

カルガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、カイツブリ、カワウ、バン、ケリ、ハイタカ、カワセミ、ハシボソガラス、ツバメ、ヒヨドリ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、ジョウビタキ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、ホオジロ、

アオジ、ドバト 計23種

朝方までの雨で開催出来るか少し心配でしたが、9時過ぎには西の空が明るくなり、雨も上がり、また雨雲もなくなっており無事に開催できました。ただ、天気は良いが風が冷たい日になりました。

鳥の出が心配でしたが、開始早々からキンクロが水面を泳いでいて、少ししてハイタカも飛んでくれました。定番のカワセミは最後に一部の人しか見ることが出来ませんでした。ツバメが気持ちよく飛んでいき、ヒバリやウグイスのさえずりも聞くことができ、確実に春の訪れを感じる今年度最後の探鳥会となりました。

● 宮リバー公園探鳥会

2015年3月15日(日)9:30~11:00

度会町 宮リバーわたらいパーク

小坂里香 西村 泉 参加者7名(会員4名)

カルガモ、コガモ、カワアイサ、カイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、イカルチドリ、イソシギ、トビ、コゲラ、アオゲラ、モズ、ハシブトガラス、ヤマガラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、ウソ、シメ、イカル、ホオジロ、アオジ 計33種

集合時間に集まりが悪かったが、熱心な初参加の方が2名、途中から飛び入り(散歩中の方)1名の合流があり、初心者向け探鳥会として充実した内容になりました。

セキレイ類3種の見分け、ツグミとムクドリの違いなどもじっくり観察。桜のつぼみをウソが食べるところや河原のメジロ・エナガの混群なども喜んで見てもらいました。写真談義や趣味の話などにも花が咲き、ツバメの初認、ウグイスのさえずりも確認でき楽しい探鳥会でした。

公園の最下流の樹木が伐採されてしまっていたのが残念でした。

● 余野公園探鳥会

2015年3月15日(日)10:00~12:00

伊賀市柘植 余野公園

塗矢尋一 田中豊成 参加者13名(会員12名)

キジバト、トビ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、クマタカ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、メジロ、シロハラ、ツグミ、タヒバリ、カワラヒワ、マヒワ、ホオジロ、ドバト 計20種

開催時期を昨年より一か月遅くしたことで、ビンズイは出ませんでした。タカ類が多く出てよ

かったです。

車のキーを落とした方がいて、会員の方々が歩いたコースをたどって、キーを見つけることができました。皆さんも落し物をしないよう気を付けてください。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2015年3月22日(日)9:00~12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者23名(会員14名)

キジ(1)、オカヨシガモ(2)、マガモ(4)、カルガモ(30)、ハシビロガモ(40)、コガモ(100)、ホシハジロ(8)、キンクロハジロ(5)、カイツブリ(3)、キジバト(5)、カワウ(120)、アオサギ(6)、ダイサギ(2)、オオバン(7)、ケリ(6)、コチドリ(2)、クサシギ(1)、イソシギ(1)、カモメ(1)、ミサゴ(1)、トビ(2)、チュウヒ(3)、ハイイロチュウヒ(1)、ノスリ(2)、カワセミ(1)、モズ(2)、ハシボソガラス(40)、ハシブトガラス(40)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(40)、ツバメ(2)、ヒヨドリ(10)、ウグイス(5)、メジロ(1)、ムクドリ(20)、ツグミ(10)、ジョウビタキ(3)、スズメ(90)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(3)、タヒバリ(3)、カワラヒワ(15)、ホオジロ(3)、アオジ(3)、ドバト(150) 計45種

つくしがたくさん顔を出し、温かい探鳥会日和でした。

残っている冬鳥だけでなく、ツバメも加わりたくさん種の観察できました。

● 篠田山探鳥会

2015年3月29日(日)9:30~11:30

松阪市久保町 篠田山斎場

宮川たつ 中村洋子 参加者11名(会員11名)

キジ、カルガモ、キジバト、カワセミ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、ツグミ、ジョウビタキ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ、コジュケイ 計23種

イカルの群れが見られました。コゲラのつがいがアチコチにたくさんいました。

● 亀山里山公園探鳥会

2015年4月11日(土)10:00~11:30

亀山市椿世町 亀山里山公園

岡 八智子 齊藤加代子 参加者6名(会員6名)

キジ、カルガモ、ダイサギ、コサギ、カワセミ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、

エナガ、メジロ、ムクドリ、シロハラ、ツグミ、スズメ、キセキレイ、セグロセキレイ、カワラヒワ、イカル、アオジ 計 24 種

長雨が続き当日やっと晴れたので期待したが参加者は少なかった。

公園内の歩道等の工事もほぼ終わったが、鳥達は少なく寂しかった。チョウ・山野草・樹等の観察もゆっくり出来た。最後にカワセミが楽しませてくれたが、何時も現れるタカの姿が無かった。

● 五主探鳥会

2015 年 4 月 12 日 (日) 10:00 ~ 11:30

松阪市 五主海岸・大池

西村四郎 小野新子 参加者 18 名(会員 15 名)
キジ、オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、ハシビロガモ、オナガガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、スズガモ、ウミアイサ、カイツブリ、ハジロカイツブリ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、コサギ、オオバン、コチドリ、シロチドリ、メダイチドリ、ミヤコドリ、セイタカシギ、タシギ、オオハシシギ、オオソリハシシギ、ツルシギ、タカブシギ、イソシギ、ハマシギ、ユリカモメ、セグロカモメ、ミサゴ、トビ、チュウヒ、ハヤブサ、ハシボソガラス、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、セッカ、ムクドリ、ツグミ、スズメ、ハクセキレイ、タヒバリ、

カワラヒワ、ホオジロ、アオジ、ドバト
計 53 種



シライトソウ

集合時は潮が満ちており、鳥が近かったのですが、パラモーターが近くを飛んで鳥が逃げる場面もありました。

ハマシギの群れやミヤコドリ、メダイチドリなどのシギチ類、頭が黒くなっているユリカモメ、夏羽になってきたセグロカモメや多くのカモ類が観察できました。

この後五主池へ立ち寄り、まだけっこう残っているスズガモ、キンクロハジロ等を観察し、大池へ移動しました。今年も恒例のツルシギ、オオハシシギが来てくれており安心しましたが、シマアジやコムクドリはまだ到着していませんでした。

今年は寒いのか、タヒバリやハジロカイツブリの夏羽が見られ、シギチの到着が遅いように思います。

探鳥会後は、N さんの案内で金剛川へクロツラヘラサギを見に行かれた方が多くいました。

● 五十鈴川上流探鳥会

2015 年 4 月 18 日 (土) 6:30 ~ 8:00

伊勢市 五十鈴川上流

杉原 豊 中西 章 参加者 13 名(会員 9 名)
カルガモ、キジバト、アオサギ、ダイサギ、オオタカ、カワセミ、コゲラ、アオゲラ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ヤブサメ、エナガ、センダイムシクイ、メジロ、カワガラス、シロハラ、コサメビタキ、キビタキ、スズメ、カワラヒワ、ウソ、イカル、ホオジロ、アオジ 計 29 種

新緑のすがすがしい清流の道を、夏鳥の鳴き声を聞きながら歩くことができた。

今春は天候不順が続いたためか、オオルリを確認できなかった。カワガラス、オオタカを見ることができた。

● 志原川及び水田探鳥会

2015 年 4 月 19 日 (日) 9:00 ~ 11:15

南牟婁郡御浜町 志原

清水勝海 北川直人 参加者 9 名(会員 6 名)
キジ、カルガモ、キジバト、カワウ、アオサギ、ダイサギ、チュウサギ、ツバメチドリ、イソシギ、ミサゴ、トビ、カワセミ、アリスイ、コゲラ、モズ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ツバメ、イワツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、ムクドリ、ツグミ、イソヒヨドリ、スズメ、セグロセキレイ、タヒバリ、カワラヒワ、ホオジロ、アオジ
計 30 種

曇り空でしたが暑くもなく寒くもなく、鳥見には良い日でした。

お目当てはシギチでしたが、あまり出ず残念で

した。最後にツバメチドリを見ることができ良かったと思います。

● 県民の森観察会

2015年4月25日(土) 9:30～12:00

三重郡菟野町千草 三重県民の森

安藤宣朗 阿部 裕 参加者21名(会員15名)
キジ、キジバト、トビ、サシバ、コゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、シロハラ、コサメビタキ、キビタキ、オオルリ、ビンズイ、カワラヒワ、イカル、ホオジロ、アオジ、コジュケイ 計24種

夏鳥はオオルリ、キビタキ、コサメビタキなど。センダイムシクイ、エゾムシクイ、サンショウクイなどとの出会いも期待していたが、声も聴くことができず残念だった。鳥は満足に見られなかったが、天気が良く、参加者には新緑の中のウォーキングを楽しんでもらえたのではないかと思う。

● 木曾岬干拓地探鳥会

2015年4月26日(日) 9:00～12:00

愛知県弥富市 鍋田干拓地・木曾岬干拓地

共催団体/日本野鳥の会愛知県支部

近藤義孝 米倉 静 参加者23名(会員14名)
キジ(2)、マガモ(4)、カルガモ(15)、コガモ(14)、ホシハジロ(3)、キンクロハジロ(1)、カイツブリ(1)、キジバト(5)、カワウ(40)、アオサギ(6)、ダイサギ(5)、コサギ(4)、オオバン(2)、ケリ(30)、コチドリ(2)、チュウシャクシギ(4)、イソシギ(3)、ユリカモメ(9)、ミサゴ(2)、チュウヒ(4)、カワセミ(1)、モズ(1)、ハシボソガラス(20)、ハシブトガラス(100)、シジュウカラ(1)、ヒバリ(50)、ツバメ(30)、ヒヨドリ(50)、ウグイス(5)、センダイムシクイ(1)、メジロ(1)、セッカ(10)、ムクドリ(20)、ツグミ(1)、オオルリ(1)、スズメ(50)、ハクセキレイ(3)、セグロセキレイ(1)、カワラヒワ(6)、ホオジロ(5)、ドバト(70) 計41種

4月とは思えないほど暑い日でした。チュウヒが4羽いました。まだ残っている冬鳥とやってきたばかりの夏鳥が観察できました。

● 三郷山探鳥会

2015年4月29日(水・祝) 9:30～12:00

伊勢市 伊勢ロマンの森三郷山

橋本祐子 中西 章 参加者15名(会員10名)
キジバト、カワウ、コゲラ、アオゲラ、ハシボソガラス、ハシブトガラス、ヤマガラ、シジュウカラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、ウグイス、エナガ、メジロ、イソヒヨドリ、キビタキ、スズメ、

ビンズイ、カワラヒワ、コジュケイ 計20種

この数日の陽気で冬鳥が移動してしまい、確認数は多くなかったですが、キビタキのさえずりがじっくり聞けました。モチツツジ、フジ、クロバイなどの木の花や落葉樹の新芽が美しく楽しい半日でした。

木からはがれおちたらしいエナガの巣が地面の落ちていて、外側は鮮苔類、クモの巣、内側に少量の木の皮、様々な鳥の羽毛が入っていました。

編集後記

オールカラー印刷もなんとか軌道に乗っている。会員がもっと増え、原稿の投稿も増えればいいことはないのだが。

今回は我々と同じく海岸で保護活動を繰り返している三重大学の学生サークル、かめつぷりの活動について寄稿していただいた。津・鈴鹿の海岸に多くのウミガメが上陸しているとの様子に興味深い。海岸は野鳥だけでなく、様々な野生動物の生きる空間なのである。

道路や林道建設も近年はひとしきり盛んになっている。リニア鉄道もいずれは県内を通過させるようになるであろう。経済のために自然がいとも簡単に破壊されていく構図は残念ながら今も変わっていない。自然を破壊して、快適な生活が得られるという保障は何もないのだが。

しろちどり 84号

2015年6月20日発行

題字：濱田 稔

表紙絵：小野 新子

カット：平井正志

編集：平井正志

発行所：日本野鳥の会三重

平井正志 方

514-2325 津市安濃町田端上野 910-49

<http://miebird.org/>

印刷：株式会社プリントパック

617-0003 京都府向日市

森本町野田 3-1